

表紙・・・裏

今日は、わしの子どもの頃の話聞いてもらおうか。

4 月の中ごろ、「はるごと」というお祭りがあってなあ、5～6 軒のご近所さんと松山公園に行ったんや、桜も咲いとったで。

そのときは、お母さんたちが蓬をつんで蓬餅を作ってくれたり、まきずしを作ってくれたりしたんや。

蓬餅もまきずしも、今みたいにいつでも食べられるわけじゃなかったんや。雨が降ったらもうその年の『はるごと』は、中止になってしまったんや。

お天気が心配やったなあ。

表紙・・・裏

『はるごと』のお祭りには、いくつかの露店が出るんや。

おこづかいを 10 銭か 20 銭もらって、洋食焼きやちょぼ焼きなんかを買って食べたんや。

そのころは、どんぐり飴が二つで 1 銭やった。100 銭が今の 1 円なんやで。

表紙・・・裏

ここら喜連のあたりは、見渡す限りの田んぼと畑やった。

お米を収穫した後、麦かジャガイモを作る『あげ田』と、水はけの悪い泥のような田んぼがあった。

泥のような田んぼはほんとに水浸しで、まるで海のように見えたんやで。

「あげ田」に水路から水を上げるために水車を踏んだんや。

小学校の 5、6 年になったら毎日、水車を踏んでから学校に行つたもんやった。

表紙・・・裏

夏になって草が生える頃になったら、子どもはみんな「田垣」をするのや。

『田がき』というのは、田んぼに入って稲と稲の間の草を抜く仕事やで。

田んぼには、血を吸うヒルがいっぱいおってな。

足に目の詰まった布を巻いて、田んぼに入らんかったら、ヒルがいっぱい吸い付いてきよった。嫌やったなあ。

ヒルというのは、なめくじをぺっちゃんこにしたような真っ黒けの生き物や。

よその土地から喜連村に来はったお嫁さんはびっくりしてはった。

表紙・・・裏

その頃はなあ、喜連小学校には役場も駐在所も一緒にあってな、ひげをはやしたこわいおまわりさんがおったんや。

学校の帰りにマッカ瓜の畑に入って、盗み食いしようとしたら見つかってしもて、先生にもおまわりさんにも、思いっきり怒られた。

怖かったなあ。

表紙・・・裏

泣きながら帰る途中、マッカ瓜の畑のどこまで来たら、畑のおっちゃんが「こっちのマッカ瓜の方が甘いで」と言って、ひとつ取ってくれた。

おっちゃん「喜連のマッカ瓜は、綿の実から油を搾った後に残るマコウという肥料や。

つるべで汲んだ井戸水で育てているから、おいしいて有名なんやでえ。

そやけど、これは特別おいしいで」と言うて食べさしてくれた。

ほんまに甘かった。

それにしても、見ただけで味のわかるおっちゃんて、すごいと思うたなあ。

表紙・・・裏

昔は、日が暮れるまで外で遊んどったんや。

どじょう取り・べったん・べいごま・兵隊ごっこなんか、ようしたなあ。

兵隊ごっこ言うのはなあ、2 組に分かれてそれぞれの組で大将・駆逐艦・潜水艦に分かれるんや。

ぼうしのつばを前にすると大将、横にすると駆逐艦、後ろにすると潜水艦なんやで。

大将は駆逐艦を、駆逐艦は潜水艦を、潜水艦は大将を捕まえることができるんや。

大将が捕まると負けになるので、みんなで自分の組の大将を守るんや。

今、遊びゆうたらテレビゲームやけど、体を動かして、みんなと走り回るのはおもしろかったで。 駆逐艦...軍艦の一種。敵の艦船や潜水艦を撃破(駆逐)するのを任務とする小型の快速艦。

表紙・・・裏

そやけど、家の手伝いもようしたで。

水車踏みだけと違うで。マッカ瓜を大八車に乗せて、大国町の木津市場や玉出の方まで売りに行く手伝いや。

市場へ行くには、上町台地も越えて行かなあかん。

上町台地を越える時、登りはゆっくり長～い坂やけど、下りは急なんや。

子どもはブレーキ役で引っ張りながら坂を下りたもんや。

引っ張っとかんと、転げ落ちて行くくらい、きつい下り坂やねん。

しんどかったけど、高く売れるとうれしかったなあ。

表紙・・・裏

稲刈りの後には、田んぼのドジョウやタニシを食べに、雁や白鷺が飛んで来たんや。

朝に飛んで来た鳥たちは、夜にはちゃんと帰つていきよるんや、えらいもんやで。

特に、雁はいくつもいくつも隊列を組んで飛ぶんや。そらみごとなもんやったでえ。

タニシは、鳥たちが食べるだけやなかったんやで。

田んぼに行くときは、いつも腰に袋を下げて行って、タニシを見つけたら、その袋に入れたんや。

それを家に持って帰って、お母さんに妬でてもらって、おやつのかわりに、食べたもんや。

表紙・・・裏

お月見の日は、各家の縁側にお団子やおにぎりサトイモを、お月様に見えるように
お供えしていたんや。

子どもたちは、どの家の子もみんな竹の先を尖らせて、よその家においてある食べ
物を突きに行ったもんや。

うまいこと、竹の先に刺さったら、急いで逃げたんや。

お供物には突いて取りやすい物と、取りにくい物があるんやで。

サトイモは取りやすいけど、おにぎりは突くと壊れてしもうた。

子どもの頃は、お月見が、まさか月を見ることやなんて思わんかった。てっきり食べ
物を突く突きみやと、思うとったわ。

表紙・・・裏

稲刈りがすんだら、年の暮れまでしめ縄作りや。

十月頃から作るとこもあったなあ。

夜おそくまで裸電球ひとつで、しめ縄を作っておった。

ご近所さんが集まってな、流れ作業でやるんや。

わらを柔らかくする機械は共同で使う。

柔らかくなったわらを、みんなで編むのや。

共同で買った橙を、飾り付けていく人もおる。

複雑な形のしめ縄を作る技術を持った人もいてはった。

子どもはな、縄からはみ出たわらをはさみで切っていくんや。

これもりっぱな手伝いでな。手にはまめができたわ。

表紙・・・裏

昔は、遊びも家の手伝いも一生懸命やったなあ。

畑仕事なんかは、いつも家族が全員そろってしたし、いろんなことをご近所さんと協力しあってしたもんや。

遊ぶ時も、昔は一人で遊んどる子なんておらんだなあ。

みんな、今と生活も遊びもぜんぜん違うからびっくりしたやろ？

これが、わしの子供の頃、まだ、このへんが喜連村と呼ばれとつた頃の一年の様子や。

長い間、聞いてくれて、ありがとう。